



平成25年11月30日(土) 1
第3回熊本大学関西連合同窓会
於：太閤園・ダイヤモンドホール

基調講演

熊本大学の新たな飛躍に向けて
＝国立大学を取り巻く状況とその将来＝



熊本大学長
谷口 功



目次

1) 大学を取り巻く状況

熊本大学の歴史と我が国の150年

(明治維新／第二次世界大戦／

そして、現在(この20年の変化と3.11以降)

2) 大学及び大学教育の目指すところ

a) 国際社会で活躍できる人「財」育成

b) 将来に向けて

参考

本学の活動から

H25・26年度理事・副学長

理事長・学長 谷口 功 (工)(総括)

理事・副学長 山中 至 (法)(教育・学生支援、就職、教育改革、
附属学校園、同窓会、60年史)

理事・副学長 原田信志 (医)(研究・社会連携、基金)

理事・副学長 両角光男 (工)(人事・労務、企画、組織、
安全衛生、情報化、広報)

理事・副学長 安部眞一 (理)(評価、目標・計画、個人評価、
入試、高大連携担当)

理事 倉田 裕 (事務)(財務・施設、事務改革、
コンプライアンス、危機管理)

理事 野口敏夫 (弁護士)(法務)

副学長 伊原博隆 (自然)(国際交流)

副学長 山縣ゆり子(薬)(男女共同参画)

副学長 谷原秀信(医・附属病院)(附属病院長、病院経営)

学長特別補佐 各副学長担当課題に1~2名ずつ配置

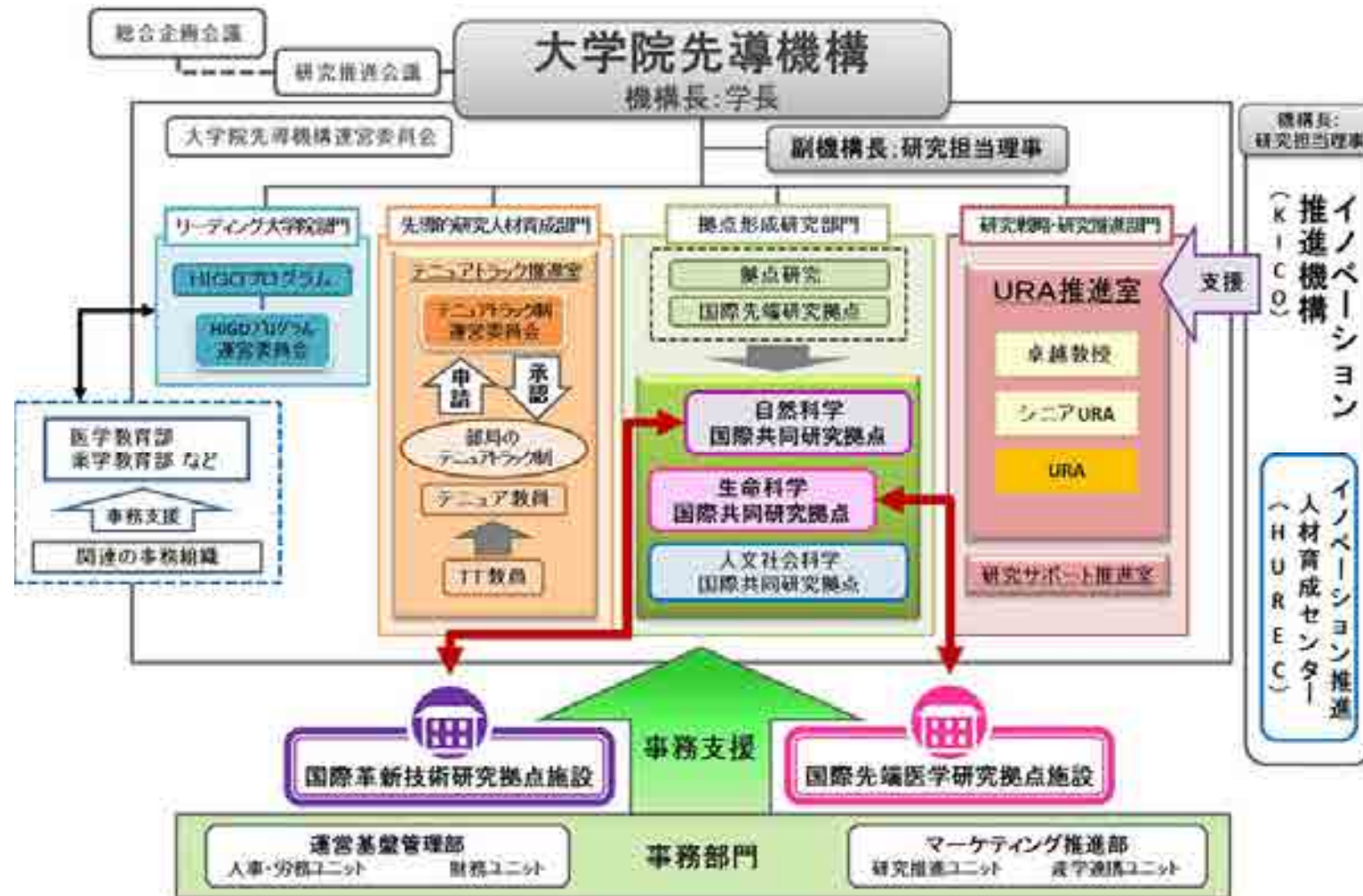
本学は我が国を代表する
研究拠点大学

熊本大学の最近の動き

しっかりした研究基盤に基づく高度で質の高い教育を保証

文部科学省「研究大学強化促進事業」

研究拠点大学(支援対象機関)に採択(RU-22)



研究力の強化(世界で戦える Research Universityに)

==> 国際先端研究拠点の整備(国際先端医学研究拠点/国際革新技术研究拠点)

大学を取り巻く状況(「大学の在り方」に関連して)

6

背景(社会の変化:グローバル化、情報化==>価値の変化)

大学改革:質と量/大学の機能分化・機能強化

==>大学改革実行プラン/ミッション再定義==>大学ビジョンの提示

(教育再生実行会議:大学の在り方=質と量/グローバル化に対応した教育/
大学入試改革等が議論され、中教審大学分科会等で議論される)

大学改革実行プラン(国立大学への大きな期待と厳しい要求)

大学の役割==>社会の変革のエンジンとなる大学としての期待

方向性 ==>大学の機能の再構築(国立大学の存在意義を再考)

実行計画 ==>平成24・25年度に国立大学は、「存在意義/実績を明確に」

==>大学ビジョンを示す/存在理由と現実と照合評価

役割分担 ==>世界と戦う研究(COI)・グローバル人材/COC(地域連携)等

==>情報公開:客観的指標による評価

教育==>入試の在り方(含:秋入学)/教育の質:組織的な教育/評価

今何が起きているのか:

その時代背景をこの150年の歴史を振り返りながら考える

Kumamoto University

著名教授陣

7



嘉納 治五郎
講道館柔術を創始。
第三代第五高等中学
校長。

在任：1891/8~1893/1



ラフカディオ・ハーン
小泉八雲として知られる
英国人。英語とラテン語
の教師。

在任：1891-1894



夏目 漱石
明治29年五高教授。
「草枕」等を執筆。

在任：1896-1900



1887年(明治20年)設置
本科/予科

多くの偉人が集った、伝統の赤煉瓦。

市民の熱意と協力のできた
著名な卒業生

熊本から
多くの人材を輩出

大正9年(1920)まで9月入学



剛毅木訥／質実剛健

寺田 寅彦
物理学者・随筆家。五高
で漱石に師事。東大教授。
独特の写生文や科学随筆
で知られる。



佐藤 栄作
政治家・首相。昭和47年
沖縄返還を実現。
ノーベル平和賞を受賞。

夏目漱石：三四郎

「学年は、9月11日に始まった。――」

熊本大学／第五高等学校

ナンバースクール

剛毅木訥／質実剛健
(逞しい人材)

明治20年(1887)4月

一高 東京市 東京大学

二高 仙台市 東北大学

三高 京都市 京都大学

四高 金沢市 金沢大学

五高 熊本市 熊本大学

ハーン
熊本スピリッツ(素朴・善良・質素)

=====

明治33年3月

六高 岡山市 岡山大学

明治34年4月

七高 鹿児島市 鹿児島大学

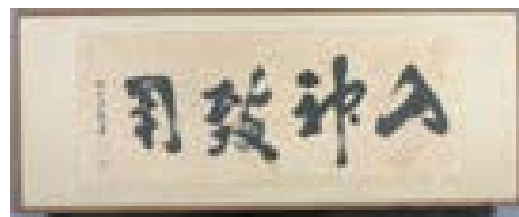
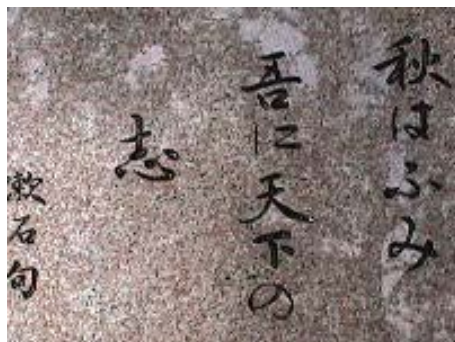
明治41年3月

八高 名古屋市 名古屋大学

=====

漱石

「秋はふみ、吾に天下の志」



入神致用(勝 海舟)

産業(工業)の中心としての九州

==>人材が近代日本の発展の礎を築いてきた

欧州(ドイツ、イギリス等)がお手本

熊本大学の歴史的な建造物(文化財)

国指定重要文化財

活用される文化財:



工学部研究資料館
機械遺産に認定済



五高記念館



化学実験場



赤門



現存の最古のドラフト

60周年記念事業で集めた資料等を整理・保管
==>史料編纂センター設置を視野に

化学実験場:
日本化学会
「化学遺産」登録
および
文化庁の
「活用保存文化財」指定
に向けて申請中

学長特別講義

歴史的な施設を活用して、
人財を輩出し続ける

設計:文部技官 山口半六・久留正道

第二の変化：第二次世界大戦後の経済発展

ゼロからの出発：

自由で発展した世界／先進国(特にアメリカ)をモデルに発展

==> 経済大国に／世界の奇跡(Miracle Japan)

世界一の発展(Japan as number one)

教育の均等化／拡大；大量の質の高い均質な人材育成

(cf. 百田尚樹 本屋大賞 海賊と呼ばれた男)

しかし、世界の急速な変化：50年(70年)も経てば世界が変わる!!

アジア諸国の発展／ICT革命(情報が瞬時に世界に、世界から)

グローバル化の急速な進展==>アジア、そして発展途上諸国の発

そして今：第三の変化(新しいグローバル時代へ)

明治維新／第二次世界大戦後／現在

吸収型 ==> 普及型 ==> 創造型

これからは、手本は無い ==> 日本が手本を示すとき

国際化(グローバル化)時代・社会

1 1

国際化することは、我が国の良さを際立たせること!

これからの我が国: 世界が憧れる国 / 国際社会で存在感のある国!

==> 国際社会と連携して活躍できる(社会変革を担う)人「財」が必要

(経済的な視点: 世界の発展を支える)

==> 国際的に存在感のある地域 / 国を目指す(世界の一流レベル)

==> 発展するアジア等を視野に / 先進諸国においても存在感

(文化的・社会的・人間的にも世界の一流国に)

==> 若者(将来の日本を担う者)の国際化が必至

日本人を元気に / 留学生の教育(世界貢献・我が国の安全保障)

==> 人を通して、世界と繋がったそれぞれの地域の実現が必要

世界と繋がる: ==> 様々な知識(文化)・技術が流入

==> 新しい成長の源泉

1) 大学を取り巻く状況

熊本大学の歴史と我が国の150年

(明治維新／第二次世界大戦／

そして、現在(この20年の変化と3.11以降)

2) 大学及び大学教育の目指すところ

将来に向けて、国際社会で活躍できる人「財」育成

参考

本学の活動から

学長の4つの約束

13



1 教育力の強化:

学生が豊かな人生を送るための「知力」を獲得できる教育を強化します。

⇒卒業生が国際社会で活躍できる社会の「人財」として

2 研究力のアップ

世界の先端的研究を推進し、特色ある基礎的研究を強化します。

⇒未来を見据えて時代を創る
(人や社会を幸せにできる研究:憧れの大学)

3 社会貢献の推進

社会貢献のために、地域と連携してさまざまな取り組みを進めます。

⇒大学の発展は地域の発展とともに
(学生が輝くまち、くまもと)

4 国際化の推進

留学生500人計画など、大学の国際化に向けて国際交流を強化します。

⇒熊本県の2,000人の留学生を誘致
(高等教育コンソーシアム熊本)

熊本大学

在学生、卒業生、職員、市民の皆様が、
誇れる大学であり、社会の憧れの存在として、
地域に根ざして
グローバルに展開する未来志向の研究拠点大学



14

再春館（医学校）（1756）

再春館から255年余、五高から125年の
歴史と伝統を誇る熊本大学

第五高等学校（1887）

（60年史編纂事業最終段階）

↓
新制熊本大学（1949）

==>60周年事業（2009）

第五高等学校、熊本医科大学、熊本薬学専門学校、熊本師範学校、
熊本青年師範学校、熊本工業専門学校などを統合

4 キャンパス; 7 学部

8 大学院, 18 研究所・研究センター



年間予算 約514億円(平成24年度)

(その内:国費約150億円(約30%弱))

外部資金 約64億円(科研費31億円/寄附金18億円/共同・受託研究等15億円)

学生数: 10,126 (含 大学院学生: 2,126);

教員: 1,008; 職員: 1,544 (附属病院の看護師等を含む) (as of May 1, 2013)

留学生 ~500 (今年:408+ ca.120 (10月入学))

卒業生: >120,000

学習から学修へ：中央教育審議会答申(H24.8.28)

変化の激しい時代：

⇒生涯学び続ける／主体的に(自分で)考える
実社会と繋がる⇒全学教育と連携しながら、
社会や世界に通用する人材(「財」)育成を!
(大学としての責任を果たす!)

大学教育：

⇒どのような状況の中でも最善の解を導く
知性を鍛え／課題の発見や解決への基礎を
身につける
将来、学生がグローバル社会で生きていく力を
身につけさせる

教育改革が必要

問われる教育の質の転換＝学習から学修へ＝

教養教育：質の高いリベラルアーツ

グローバル人材／リーダー人材の素養

専門教育：基礎力／応用力／チーム力／問題設定能力／目的意識

スキル教育：種々の手段を使いこなす

情報発進力：学修／語学力／表現力／議論力／発信力

(コミュニケーション力) など

外国語(英語)教育の強化(新入生全員にTOEIC試験：

自己診断と語学力アップ)

==> 図書館は学習から学修の場へ

==> 実社会と繋がりを意識した教育で、社会や世界に通用する

人「財」育成(学生がグローバル社会で生きていく力を身につけての責任を果たす) (大学として)

教育の質の転換=学習から学修へ=

図書館 動／静／蓄の空間

熊本大学
附属図書館
中央館

平成25年10月1日(火)
リニューアルオープン

「動」-1F-



- ・ライティングサポートエリア
- ・アクティブエリア
- ・レファレンスデスク
- ・グループ学習室(3室)
- ・リフレッシュルーム

「静」-2F-

- ・閲覧エリア
- ・スーパーサイレントルーム
- ・PCルーム

「蓄」-8F-

- ・書庫
- ・多目的ラウンジ



質の高いリベラルアーツと専門教育
能動的な学修: Active learning
(グローバル人材/リーダー人材の素養)



大学を取り巻く状況

ミッション再定義と大学改革

18

大学の役割⇒**社会の変革のエンジン**となる大学としての期待

ミッション再定義：各国立大学の存在意義の明確化

- ・各部署の特長の明確化 ⇒ 強みの強化 **しかし、一方で、**
- ・大学としての特長の強化 ⇒ 全学的な視点からの強化が必要

⇒大学は、**地域・社会の振興（産業／文化／政策などにおいて
オピニオンリーダー、シンクタンク、コーディネーター などの役割）**

⇒**地域・我が国・国際社会の活性化を担う役割：
多くのリーダー人材を育成／大学自体が地域経済への大きな影響**

熊本から世界へ：世界と繋がることの大切さ⇒そして、世界を先導する

これらを責任を持って担うために

大学機能の益々の進化・強化が必要（しかも、自律的に、多様に）

『入神致用』（勝海舟）に学ぶ学術のススメ（社会のために）

地域の大学の役割

地域の中心としての機能

＜地域(広域)の発展に責任を持つ存在＞

地域におけるシンクタンク機能を果たすとともに、地域のオピニオンリーダーとして、世界的な視野の中で地域の発展を先導する。

- ◆ 地域の産業、行政、文化等、地域機能やその発展を担う
コーディネート機能 / 地域のオピニオンリーダー
- ◆ 地域を支え、担う質の高い中核的な人材育成機能
- ◆ 行政施策や地域課題の解決に向けた助言・提言の機能(シンクタンク機能)
- ◆ 地域社会のイノベーション推進機能と地域を世界に繋ぐ機能

国や世界に対する拠点としての機能

＜我が国の将来を支える存在＞

多方面における有意で高度な人材を育成・供給。革新的科学技術等について、グローバル社会への展開を視野に入れた高度な研究開発機能を有す。

- ◆ 世界的な先端研究の推進と研究者育成(世界における我が国の存在感向上)
- ◆ 世界の人材育成への寄与(留学生を介した国際社会での我が国の理解の深化に寄与 / 国際社会で活躍できる人材の育成:国際貢献)
- ◆ 自然環境保全等への寄与(地球規模の課題の解決への大きな貢献)

未来社会を創る大学の役割は極めて大きい

熊大歌留多読み札

最優秀賞

漱石も
八雲も君も
誇りなり

【職・すぐ掃除】



夏目漱石像(左)
小泉八雲のレリーフ
旧制第五高等学校
時代に教鞭を取っ
た文豪たち

優秀賞

赤門を
くぐりて今日も
志を極む

【学(教)・まきお】

偉人の小径
サインカーブに
紅葉降る

【職・松山勇二】

草萌ゆる
武夫原頭に
集う友

【職・文武不岐】

生命の
未来を紡ぐ
発生研

【職・エスポン】

軽いぞ 強いぞ
熊大マグネシウム

【学(工)・ほくの夏休みフオー】



KUMADAI マグネシウム
熊大発、実用金属の中で最も軽く、
世界最強度のマグネシウム合金

創造する森 挑戦する炎

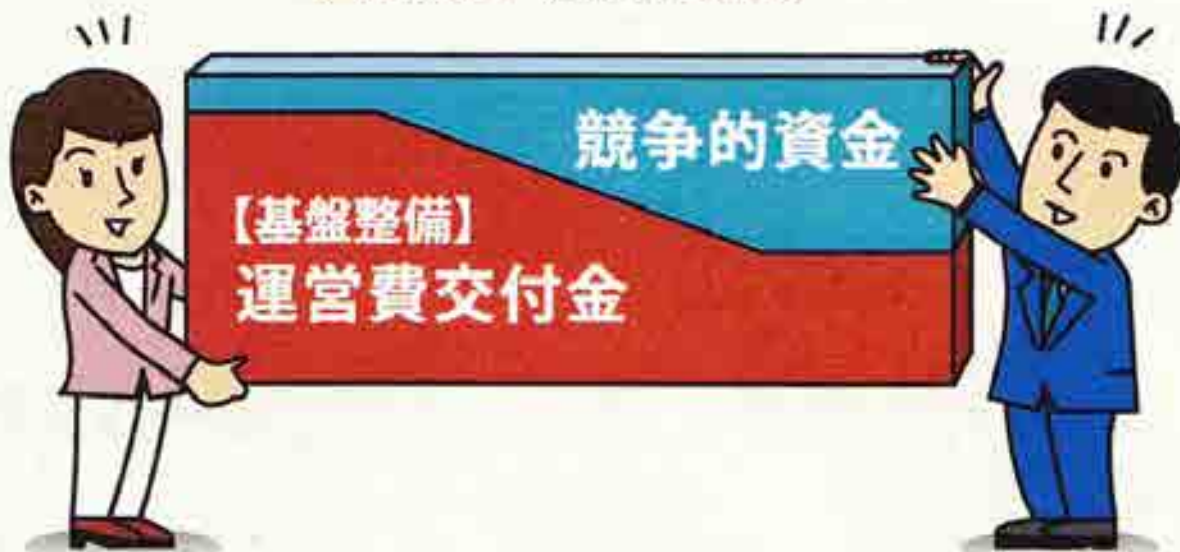


井上雄彦 氏 揮毫

法人化後の運営費交付金の推移



国立大学法人の運営



学生諸君は、将来の社会の宝(人財)!

社会のために働ける人財に育てる(大学の役割)

財政状況困難の中で大学の社会的責任を果たし、

輝く将来に向けて一層努力します!!

未来社会を創る大学の役割は極めて大きい

今後益々、本学の真価が問われることになる

100年後も輝き世界に羽ばたく熊本大学へ

ご清聴ありがとうございました

本学の将来ビジョン

生命系／自然系／人文社会系を有する地方総合大学として、
先鋭部分の強化と基礎のバランスのとれた
『総合研究拠点大学』!

- ・ユニークな先端研究・教育で世界に存在感を示す憧れの大学
- ・社会と連携して社会改革を牽引する大学

そして

「平成の五高」として人「財」を輩出し続けます

本学の輝く将来に向けてご支援をお願いします!

ホームカミングデーへのご来熊、有り難うございました

参考

本学の活動から

伝統が息づく学び舎と懐かしき友。 母校の今を身近に感じてください。

ホームカミングデーとは、母校を訪問された先輩や恩師と再会を兼ね、若いに絆を深めて頂くこと。大学が卒業生の皆様をお招きする大切な機会です。ご来学を機会にクラス会の関係者をお集りするなど、交流の輪を広げてみましょう。

キャンパスツアー 一瞥 **各コースのコースをお選びください。**

▶▶▶ 熊本大学が地方創生に貢献していることを証明した、「熊本大学国際交流センター」がご案内いたします。

黒髪キャンパス *Black Hair Campus*

A 絵と物語ー水青文庫資料を中心にー 附属図書館

水く続く 水青文庫は 未来まで

附属図書館が所蔵している貴重資料「水青文庫」は、戦前戦中戦後を通じての歴史を伝える貴重な資料です。今回は、水青文庫の中心となる資料「水青文庫」を紹介いたします。戦前戦中戦後を通じての歴史を伝える貴重な資料です。今回は、水青文庫の中心となる資料「水青文庫」を紹介いたします。

- 水青文庫の歴史
- 水青文庫の展示
- 水青文庫の活用



C 歴史が、息づく。熊大パワースポット散策 五高記念館

100年の 学びあひし 五高記念館

創立100年の歴史ある五高記念館。熊大の歴史を伝える貴重な資料が数多く展示されています。今回は、五高記念館の歴史を伝える貴重な資料を紹介いたします。

- 五高記念館の歴史
- 五高記念館の展示
- 五高記念館の活用



B 「地下の文化財」散歩 埋蔵文化財調査センター

熊本大学は、埋蔵文化財の調査・研究を行っています。今回は、埋蔵文化財調査センターの地下の文化財を散歩する機会があります。今回は、埋蔵文化財調査センターの地下の文化財を散歩する機会があります。

- 埋蔵文化財の調査・研究
- 埋蔵文化財の展示
- 埋蔵文化財の活用



D 歴史が、創り出す。時を超える機械たち 工学部研究資料館

浪漫と誇り 磨いて動く 機械遺産

熊本大学工学部の機械遺産として展示されています。今回は、工学部研究資料館の機械遺産を紹介いたします。

- 工学部研究資料館の歴史
- 工学部研究資料館の展示
- 工学部研究資料館の活用



E 願望で魅せる、未来への可能性 パルスパワー科学研究所

一瞬で 世界を変える パルスパワー

パルスパワーとは、電圧・電流・電磁場の急激な変化を利用した技術です。今回は、パルスパワー科学研究所の最新の研究成果を紹介いたします。

- パルスパワーの応用
- パルスパワーの展示
- パルスパワーの活用



F 夢の全国に、会いに行く。 先進マグネシウム国際研究センター

軽いぞ 強いぞ 熊大マグネシウム

2007年に設立された先進マグネシウム国際研究センターは、マグネシウム材料の最先端研究を行っています。今回は、先進マグネシウム国際研究センターの最新の研究成果を紹介いたします。

- 先進マグネシウム国際研究センター
- 先進マグネシウム国際研究センターの展示
- 先進マグネシウム国際研究センターの活用



大江キャンパス *Ogata Campus*

G 薫る若い情熱に触れる 薬学部キャンパス訪問

薬学部の最新の研究成果や、薬学部の最新の研究成果を紹介いたします。今回は、薬学部キャンパス訪問の機会があります。

- 薬学部キャンパス訪問
- 薬学部キャンパス訪問の展示
- 薬学部キャンパス訪問の活用



PROGRAM

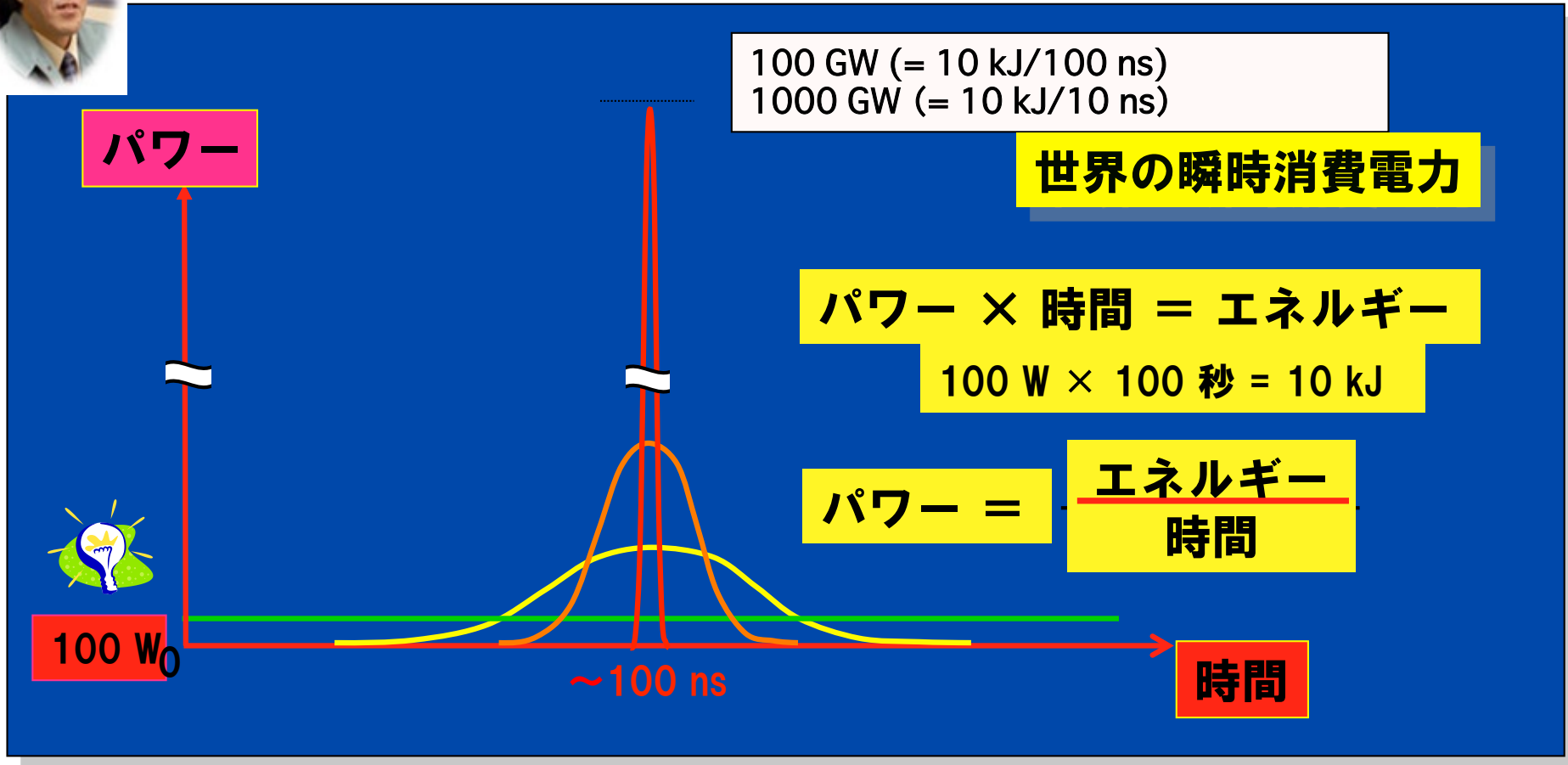
- 10:30 受付開始 (薬学部キャンパス)
- 11:00 敷地散策 - 資料館
- 12:00 ツアー
薬学部、薬学センター、薬学棟
その他最新の学生生活施設もご紹介します。
- 14:15 薬学部キャンパスへ移動
(熊本スクエアへ)
- 15:00 ホームカミングデー歓迎パーティ
- 17:00 閉会

熊大ミュージアム

熊大の歴史を伝える貴重な資料が数多く展示されています。

歓迎パーティ (熊大キャンパス) でのサークル紹介や応援所演奏もあります





エネルギーは小さくても、時間的に圧縮すると**巨大電力**を発生可能。

➡ **パルスパワー技術**

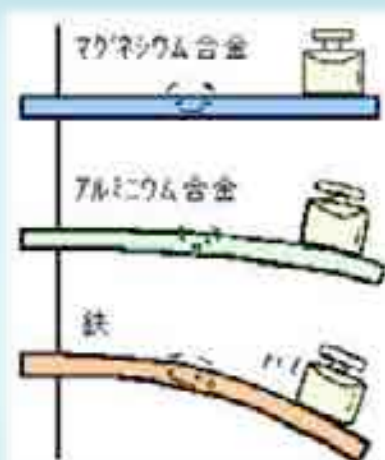
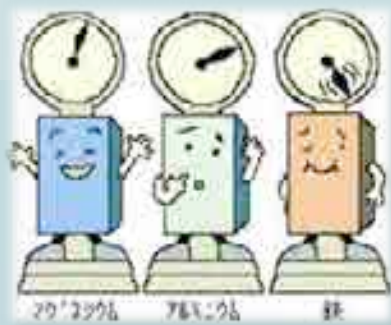
パルスパワー科学研究所の開設 (H 25.4.1)

KUMADAIマグネシウム合金

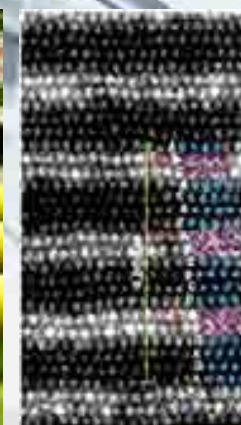
S-2

先進マグネシウム国際研究センターの設置(2011.12)

材料は世界を変えてきた



不燃マグネシウム:
世界一の耐熱性
マグネシウム材料も
作製成功!



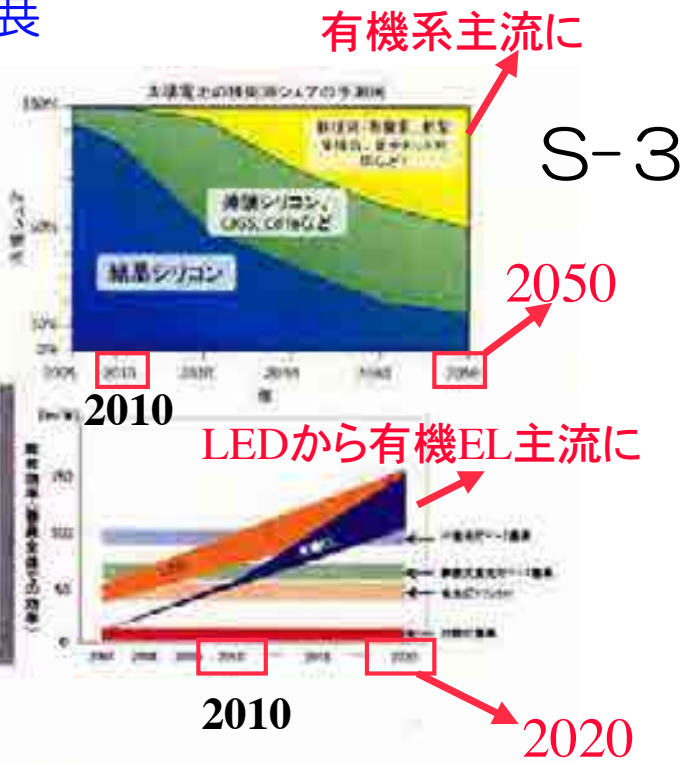
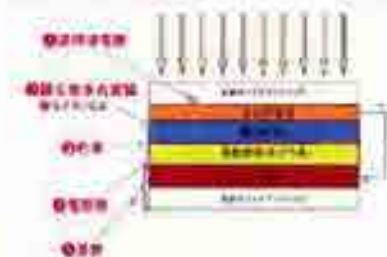
近い将来に向けて：有機エレクトロニクス技術が発展
有機薄膜技術を地域を先導する産業技術に！

■太陽電池技術、新たな材料が次々と登場、有機系も大きな役割を
 結晶シリコン → 薄膜シリコン(CIGS等) → 新技術(有機系等)
 (現行) (2015~2030)

■長い歴史の照明技術も、新たな方式への移行の胎動
 白熱球・蛍光灯 → LED → 有機EL
 (2015~2020)

■有機系太陽電池も有機ELも、デバイス構造は、
 共に、有機薄膜の積層構造で、類似

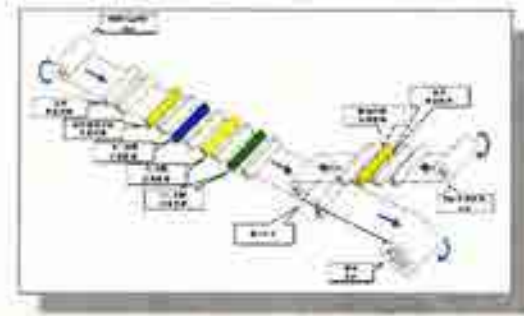
有機系薄膜デバイスの構造とは



半導体製造技術を基盤とする
真空系の製造・評価装置から、



塗布・印刷技術を基盤とする
非真空系の製造・評価装置への
 移行、必至



■有機系太陽電池も有機ELも、産業としての立ち上がり・成長の決め手は、材料と製造・評価装置

S-3

有機EL



有機ELとLEDの両方から使った和灯籠、熊本の光を
出せるのが特徴という一物両用

イー・エル・エス・エフ 熊本
電機工業株式会社、大分
市の工場にて生産した有機
ELとLEDを組み合わせた和
灯籠が、山鹿市で製作さ
れた。有機ELとLEDは、
従来の和灯籠の枠にとり
ては、

山鹿灯籠彩る最先端の光

県内生産 有機EL照明

熊本市建設、同社は、大分市、ロウソクの火のよ
うに、和灯籠を彩ることで、熊本の光を、ロウソクし
て、有機ELとLEDを、
この和灯籠に組み込
み、熊本の光を、大分
市の工場にて生産さ
れた。有機ELとLEDは、
従来の和灯籠の枠にと
りては、

和灯籠には、有機ELとLEDは、
従来の和灯籠の枠にとり
ては、



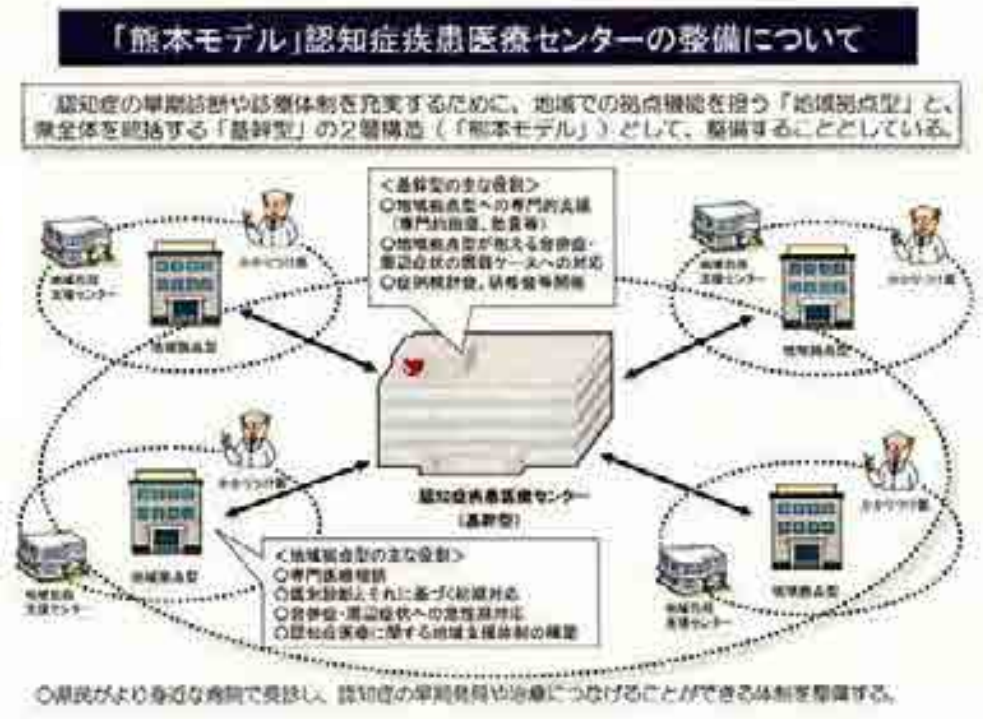
熊本日々新聞(6/22)

地域医療の担い手である附属病院等の機能強化

- ・地域医療拠点体制などの充実
(先端医療機器／コメディカルスタッフの充実)
- ・病院再開発事業
(病棟の整備に続いて
外来診療棟の整備)
- ・移植医療センターの構築
- ・診療科の整備と地域での機能分
などはもとより、



最先端生命科学研究で
世界を凌駕:世界拠点
発生医学研究所
エイズ学研究センター
国際先端医学研究拠点
臨床医学教育研究センター
など



平成24年度博士課程教育リーディングプログラムに採択 「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO」

養成したい人材像

九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結びつけて、諸課題解決に挑戦できる グローカル(グローバル+ローカル)な健康生命科学のパイオニアとしてのリーダー

プログラムの特色(英語での教育)

1. 健康生命科学の専門家の育成
2. 九州・アジアを中心に活躍する
グローバル(グローバル+ローカル)な
人材の育成
3. 行政・産業界との連携 (熊本県知事や熊本市長も参加)
4. 本学のアジア戦略を活用した海外インターンシップ
5. 社会文化科学にも精通した人材を育成



文部科学省ミュージアム「情報ひろば」にて企画展示

薬学部関係を広報8月1日から11月20日まで開催

S-6



8月7日(水)、8日(木)に開催された
「子ども霞が関見学デー」



永青文庫研究センター



織田信長朱印状

信長に仕え、丹後を拝領(はいりょう)した藤孝に向けて、天正9年(1581)9月4日に出した折紙朱印状。同年に行われた検地で得られた増分を明智光秀と相談し、把握するように命じている。「天下布武」の朱印には、信長の天下統一を目指す思いが込められている。



叢書の刊行

19世紀熊本藩
住民評価・褒章記録
「町在」解析目録の
WEB公開

<http://kijima.lib.kumamoto-u.ac.jp/>

諸外国の課題やニーズに対応した機動的な人材育成

地下水環境リーダー (Ph.D) の育成

S-8

＜アジア・アフリカに共通の問題＞

◆工業・農業・都市域の発展地下水への依存度急増
 地下水の水質保全, 汚染防止, 水質浄化,
 汲み上げ量の管理, 地下水涵養域の保全と涵養量の保持

アジア圏

—熊本大学—



アフリカ圏

※鉱業廃水・肥料の過剰施肥による地下水汚染
 ※地下水利用のための帯水層の高精度検出

※生活排水による地下水汚染
 ※NH₄-N, NO₃-Nによる富栄養化

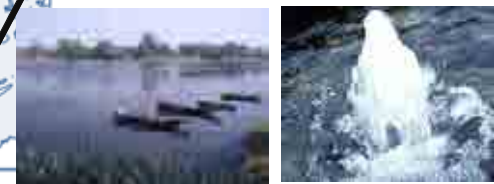


※地下水の砒素汚染
 ※沿岸域での塩害化 インドネシア

環境リーダー

環境リーダー

国内外の大学,
 研究機関と連携・
 講師招聘



課題の共有と解決

- 地下水の種々の問題の解決法
- 地下水資源の持続的利用のための理学と工学
- 地下水の公共政策,地下水法
- 地下水資源管理学

「地下水環境リーダー育成国際共同教育拠点」

熊本大学 震災復興・日本再生支援事業

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/katudou/earthquake/support>

医療支援
救済物資支援
学生／研究者支援
職員派遣 など、
できることは全て対応しています

支援プロジェクトの例:

地域経済の回復・再生・創成に向けた
世界最先端観測機器による 水中環境事業
(国立大学協会選定事業)



気仙沼湾の地形調査の例

(概要)気仙沼地域で、世界最先端の性能を有する音響解析装置及びモニタリングロボットで地形・底質を調査し、収集した位置情報、画像及びサイドスキャンイメージに基づいて、高精度3D地形図と底質・流失物の分布図を作成し、自治体に情報を提供する。

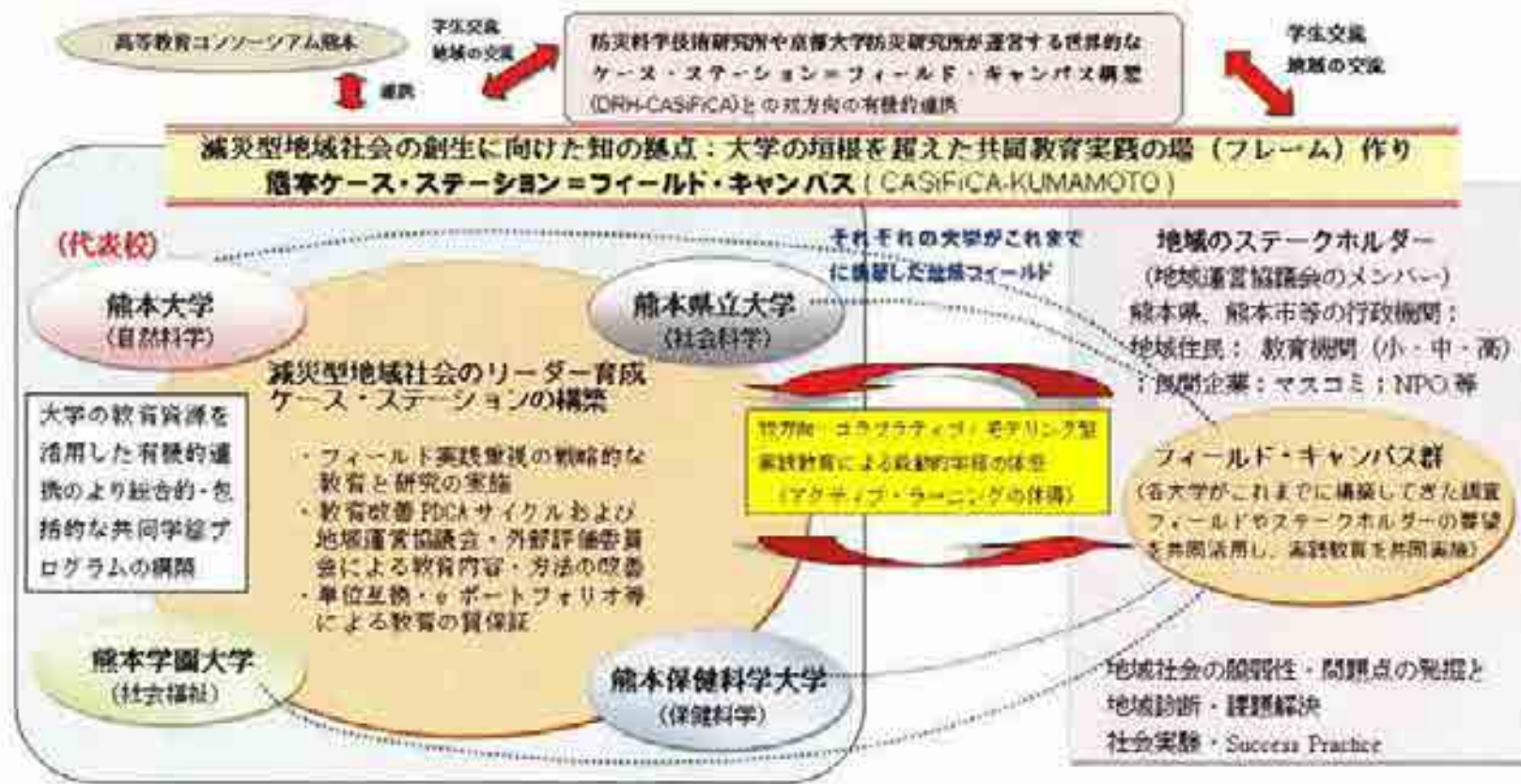
減災型地域社会の拠点：

平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」選定取組

取組名称：減災型地域社会のリーダー養成プログラム

取組大学：熊本大学（代表校）、熊本県立大学、熊本学園大学、熊本保健科学大学

1. 熊本市内の国公私の4大学がそれぞれ教育資源を活かした有機的連携により、「減災型地域社会の創生に向けた地域の拠点」実現に向けた具体的な共同教育実践の場（フレーム）となる熊本ケース・ステーション=フィールド・キャンパス（CASIFICA-KUMAMOTO）を全国に先駆けて構築する。
2. それぞれの大学が地域のステークホルダーと協働しながらこれまでに構築してきた地域内の調査フィールドを共通のフィールド・キャンパス群と位置づけ、学生から社会人を含め双方向・コラボラティブ・モデリング型実践教育による能動的学習を体験する。
3. 少子高齢化・知識基盤社会における減災型地域社会構築とその実践リーダー育成を4大学が協力し、地域への貢献の役割を果たす。



減災型社会システム実践研究教育センターの設置（2012/12/1）

環黄海(東アジア)における連携

国際化:本学の取り組み



熊本大学フォーラム
2010 in ベトナム・ハノイ



熊本大学フォーラム
2006 in 韓国

熊本大学フォーラム
2005 in 上海

齊南(山東大)
Jinan

大田
Daejeon



熊本大学フォーラム
2005 in 上海



熊本大学フォーラム
2007/2009 in 熊本

熊本

2012 in 上海

上海
Shanghai

インドネシア(スラバヤ)2008
スラバヤITSオフィス/2010年開設



2012/KU



留学生受入の目標 / 交流協定校数の推移

【留学生数の目標】

- ◆ 第二期中期前半で500名突破
 - ◆ 将来的に1,000名へ
- (参考) 協定校数の推移

国際連携

国際産学連携

サテライトオフィスの設置

熊本大学—中国・山東大学(2010年3月)

熊本大学・海外オフィス

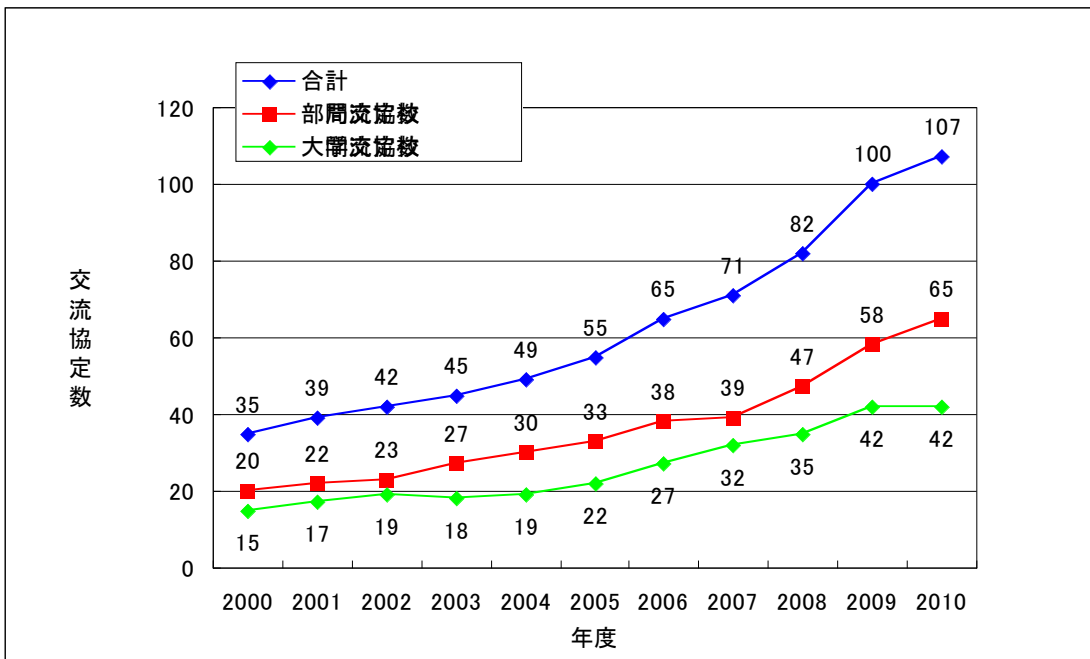
上海(中国) / 大田(韓国)に加えて、
済南(山東大学) / 大連(大連理工大) /
スラバヤ(インドネシア)等

⇒ 上海共同オフィスの実現
(2012: 県、市と共に)

連携研究室

イズミール(トルコ / エーゲ大学)

成都(中国 / 四川大学)等



現在： 30カ国 > 150 機関と連携

我が国の将来のためにも極めて有効
(相互理解: 外交 / 国家間の安全保障等にも寄与)

